

## 平成24年度 リニアドライブ技術委員会 活動報告

委員長 北野淳一

### 1. 技術会合(シンポジウム, 見学会, 産業応用フォーラム, 講習会) ※年度内(4月～翌年3月)分をすべて記載.

開催日	会合種類	会合名	場所	実施状況
3/9	産業応用フォーラム	環境調和型社会と磁気浮上技術の動向	日本交通協会	15名
3/23	全国大会シンポジウム	S16 新世代アクチュエータの多自由度化可能性について	広島工業大学	50名
7/20	見学会(TER/LD)	JR東日本ATACS@仙山線	仙台	
8/21	D部門大会シンポジウム	産業用リニアドライブ技術と応用の変遷	千葉工業大学	
<del>9/21</del>	産業応用フォーラム	…D部門大会シンポジウム対応のため改めて検討中		
10/5	見学会	産業技術総合研究所	つくば	
10/	産業応用フォーラム	新世代アクチュエータの多自由度化可能性について		

### 2. 研究会予定と実施(実績/予定) ※1月～12月, および翌年1月～3月をすべて記載.

開催年月日	H24.1.21,22	H24.7/19,20	H24.8/7,8	H24.10/5	H24.11/16,17	H24.12/13,14	H25.2/22
テーマ (共催機関)	「磁気の医療 応用技術, リニア ドライブの応 用技術, およ び磁気応用一 般 (A部門 MAG 共催)	「鉄道技術・リ ニアドライブ一 般」 (TER共催)	「小形モータ・ リニアドライ ブ・家電モー ター一般」 (RM/HCA共 催)	「新世代アク チュエータの 多自由度化・リ ニアドライブ一 般」	「医用アクチュ エーション・リ ニアドライブ一 般」	「モータドライ ブ・リニアドラ イブ一般」 (MD共催)	「リニアドライ ブ一般」
場所	金沢	仙台	大阪	つくば	東京	高知	東京
日数	2	2	2	1	1	2	2
論文数(実績/予定)	22/20	14/15	/20	/10	/10	/20	/20
論文累計(実績/予定)	22/20	36/35	/55	/65	/75	/95	/20
参加者数	79						

### 3. 特記事項

- ・技術報告第1247号「磁気支持応用技術と環境調和」2012年4月20日発行(環境調和型磁気支持応用技術(調))
- ・第24回「電磁力関連のダイナミクス」シンポジウム 主催 (5/16～18, 富山) 150件, 約200名
- ・電気学会誌「技術探索」『産業用リニアドライブ技術と応用の変遷』2013年1月号掲載予定(産業用LD技術&応用変遷(調))
- ・国際会議第9回LDIA2013 共催 2013/7/7～10 杭州 中国
- ・国際会議MAGLEV2014 2014/10/20～23 UFRJ, Brazil
- ・国際会議第10回LDIA2015 共催 Aachen, Germany

以上

## 【記入要領】

- ・青字の箇所を記入する。(青字は記載例。)
- ・複数ページにわたっても構わない。

報告書番号(ページ右上):H23-□-4-○

- ・□の中には、運営委員会(年4～5回)の開催時期に対応するアルファベットを記入する。  
6月頃“A”, 9/10月頃“B”, 12月頃“C”, 3月頃“D”
- ・○の中には技術委員会ごとの番号を記入する。

### 委員会番号

1=半導体電力変換,2=モータドライブ,3=産業計測制御,4=回転機,5=リニアドライブ,6=交通・電気鉄道,7=自動車,8=ITS,9=家電・民生,10=ものづくり,11=次世代産業システム,12=生産設備管理,13=公共施設  
例:平成20年12月の運営委員会での,ものづくり技術委員会の活動報告の資料番号は「H23-C-4-11」。

## 1. 技術会合

- ・技術会合の開催計画(予定)は、当該年度(4月～翌年3月)の「技術会合、見学会等の開催予定(N次案)」で報告している。
- ・シンポジウム,見学会,産業応用フォーラム,講習会などの開催状況(実施・予定)について記載する。
- ・当該年度の4月から翌年3月に実施・予定されている技術会合について、報告済みのものを含めてすべて記載する。
- ・シンポジウム(全国大会, D部門大会)については、講演件数を“実施状況欄”に記載する。
- ・見学会,産業応用フォーラム,講習会などについては、参加人数を“実施状況欄”に記載する。

## 2. 研究会予定と実施

- ・研究会の開催計画は、当該年度(4月～翌年3月)の「研究会の開催予定(N次案)」で報告している。
- ・当該年の1月から12月,および翌年1月から3月に実施・予定されている研究会について、報告済みのものを含めてすべて記載する。
- ・論文数,および論文数累計では「実績/予定」の形式で数値を記載する。
- ・累計は1月～12月を期間として計数する。翌年1月から3月分は別累計。

## 3. 特記事項

- ・各種の特記事項を記載する。特集号の企画・実施や,他学会との研究会共催,国際会議でのセッション提案,新聞取材など,様々な活動について記載する。

以上